

2階開架閲覧室入口展示コーナーにて『岩波新書展』を開催中です！

新書は、様々な出版社から刊行されていますが、今回「岩波新書」を取り上げてみました。「新書」と聞くと「新しく出版される本」というイメージを持たれる方もいますが、「新書」とは「本のサイズ」を指す言葉です。

日本で初の新書となった岩波新書は、1938年（昭和13年）に創刊して以来、実に3300点以上を刊行。学術系の分野の入門書が、文系・理系問わず豊富に出版されてきました。

現在は幅広い世代を対象として、より日常に密着した「常識」をテーマにした内容が増えてきています。

皆さんの岩波新書の表紙のイメージは明るい赤色ではないかと思いますが、赤版、青版、黄版、新赤版の四種類あり、表紙の色によって発行された年代が分かります。右記に表紙の変遷を簡単に紹介しましたのでご覧ください。

当館では、開架と書庫合わせて3000冊以上を所蔵していますが、今回は、各分野からごく一部ですが85点を展示しました。出版部数ランキングトップ10も紹介していますのでチェックしてみてください。

これまで新書に興味がなかった方も、この機会に自分の知りたい分野の岩波新書を読んでみてはいかがでしょうか。



展示場所…2階開架閲覧室入口
展示期間…2021年8月末日



「新書」とは、本のサイズが縦17cm、横11cmで、文庫より細長い本です。もともと岩波書店で発行していた「岩波文庫」は古典を中心とした堅めなイメージの内容ですが、「現代人の現代的教養」に資することを目的として、**手に取りやすい価格とサイズで創刊**されました。



赤版 (1938年11月～1949年10月まで101点刊行)

岩波書店・創業者の岩波茂雄の主張で表紙は赤一色に。戦時中でメディアへの統制が強まる中、検閲の網にかからないようにタイトルを微妙に変更することもあった。

青版 (1949年7月～1977年4月まで1000点刊行)

社会状況の変化や研究の多様化に応じて様々な分野の本が刊行された。この間、岩波新書とともに「教養新書御三家」と呼ばれる中公新書・講談社現代新書も創刊。

黄版 (1977年5月～1987年12月まで396点刊行)

青版1000点を節目に、多層的、多面的な価値観に応じ「現代に生きる文字通りの新書」でありたいとして刊行。これまでとは違う、趣味の分野も取り扱うようになる。

新赤版 (1988年1月～現在。2021年5月現在で1880点)

岩波新書の創刊50年、刊行1500点を超えて新赤版となる。「新世紀につながる時代に対応したい」と掲げて刊行。新赤版刊行1000点突破を機に2006年からは「21世紀の教養新書」として、装丁も併せてリニューアル。